

【資料2】第一部関係 公開シンポジウム等 (令和4年4月～開催予定分)

開催日	名称	開催場所	委員会・分科会
令和5年2月23日 (予定)	公開シンポジウム「子供政策の総合化を考えるⅡ 乳幼児の学びの保障：幼児教育と小学校教育の接続の観点から」	オンライン開催	心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会、心理学・教育学委員会排除・包摂分科会
令和5年1月28日 (予定)	公開シンポジウム「ダイバーシティ推進と日本社会の<不平等>」	オンライン開催	社会学委員会
令和5年1月19日 (予定)	公開講演会「ジェンダー視点に基づく議会改革」	衆議院第一議員会館1階 国際会議室	政治学委員会比較政治分科会
令和5年1月7日 (予定)	公開シンポジウム「婚姻平等の射程」	オンライン開催	法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会
令和4年12月23日 (予定)	公開シンポジウム「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」	オンライン開催	地域研究委員会人文・経済地理学分科会
令和4年12月18日 (予定)	公開シンポジウム「地名標準化の現状と議題：地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」	オンライン開催	地域研究委員会地域情報分科会
令和4年12月12日 (予定)	公開シンポジウム「あらためて高大接続を考える：有識者との議論を通じて」	オンライン開催	心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会
令和4年12月11日 (予定)	公開シンポジウム「文化財保護に未来はあるかー日本の文化財のこれからを考えるー」	オンライン開催	史学委員会文化財保護と活用に関する分科会
令和4年12月10日 (予定)	学術フォーラム「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る」	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	地域研究院会地域研究基盤強化分科会
令和4年12月10日 (予定)	公開シンポジウム「今、なぜ「国家」が問われるのか？」	オンライン開催	哲学委員会
令和4年12月4日	公開シンポジウム「人口減少時代の地域のかたち」	日本学術会議講堂	地域研究委員会地域学分科会
令和4年11月27日	公開シンポジウム「経営学分野における若手研究者の育成のために、今、何が求められているのか？研究業績の評価と関連して」	日本学術会議講堂	経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会
令和4年11月26日 27日	公開シンポジウム「芸術としての風土」	京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール (ハイブリッド開催)	哲学委員会芸術と文化環境分科会
令和4年11月19日	公開シンポジウム「人類学者と語る人間の「ちがい」と差別」	オンライン開催	地域研究委員会文化人類学分科会
令和4年11月13日	公開シンポジウム「コロナ・パンデミックと格差・分断・貧困ー現状と今後」	追手門学院大学総持寺 キャンパス大教室	社会学委員会社会理論分科会
令和4年11月5日	公開シンポジウム「自治体とエネルギー政策」	同志社大学今出川キャンパス良心館地下1教室 (ハイブリッド開催)	政治学委員会行政学、地方自治分科会
令和4年10月29日	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐって（6）「歴史総合」の教科書と授業を検討する」	オンライン開催	史学委員会、同中高大歴史教育に関する分科会
令和4年10月21日	公開シンポジウム「持続可能な未来をつくる意思決定の仕組み」	オンライン開催	経済学委員会持続的発展のための制度設計分科会
令和4年10月2日	公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」	オンライン開催	史学委員会・同歴史認識、歴史教育に関する分科会
令和4年9月24日	公開シンポジウム「「地理総合」開始後の地理教育における課題と展望」	香川大学教育学部日本地理学会秋季学術大会第1会場	地域研究委員会地理教育分科会
令和4年9月18日	公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争ー世界の視線の多様性と日本の選択ー」	オンライン開催	史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会
令和4年9月17日	公開シンポジウム「東日本大震災の復興をめぐる社会的モニタリングの方法と課題」	オンライン開催	社会学委員会災害・復興の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会
令和4年9月2日	学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる#8 コロナパンデミックが顕在化させた「働くこと」の諸課題は人口問題にどう影響するか？」	オンライン開催	
令和4年7月29日	公開シンポジウム「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」	オンライン開催	政治学委員会国際政治分科会
令和4年7月23日	公開シンポジウム「《危機は法を破る》のか？危機管理における人種制約と権力統制の問題」	オンライン開催	法学委員会
令和4年6月25日	公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流（第27回史料保存利用問題シンポジウム）」	オンライン開催	史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

令和4年4月23日	公開シンポジウム「孤独・孤立と『つながり』の再生」	オンライン開催	社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会に関する多角的検討分科会、社会学委員会社会福祉学分科会
-----------	---------------------------	---------	---

分野別委員会 活動報告

1. 言語・文学委員会 (委員長：吉田和彦)

言語・文学委員会では4つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・4つの分科会の活動状況の検証と今後の活動予定についての検討を行った。
- ・委員手当付きの分科会の開催数と予算との関係について審議を行った。
- ・夏季部会などの機会を活用して、第一部の他の分野別委員会と積極的に意見交換を行うことについて審議した。

(1) 古典文化と言語分科会 (委員長：倉員正江)

① 意思の表出の状況

第26期に、「大学入試共通テスト過去問題の分析と公表された試作問題に関する意見表出」を予定。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・共通テスト本試験の検討について、2023年3月に分科会を開催予定

④ その他、報告事項

2022年11月20日に開催された分科会において、大学入学共通テスト「国語科」過去問題の検討と今後の課題について、質疑応答や意見交換を行った。

(2) 文化の邂逅と言語分科会 (委員長：原田範行)

① 意思の表出の状況

異文化交流を含む、今後の言語文化研究のあり方及び研究成果の実践に関する意見表出（見解）を発出する予定。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

上記の見解発出に向けたシンポジウムを来期に予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1月 第7回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、第24期に発出した提言「大学入試における英語試験のあり方についての提言」のその後の動向を引き続き検証しつつ、学習内容や教材の適切性などの観

点から現況の課題を抽出した上で、その抽出された課題を軸に、英語及び諸外国語教育や異文化教育の各種方法論の検証、及び人文学研究の動向と教育的還元のあるあり方について、調査内容の検討と具体的方策に関する協議を行った。

(3) 科学と日本語分科会（委員長：木部暢子）

① 意思の表出の状況

第 26 期に、「日本における言語の多様性の保持及び言語におけるインクルージョン」に関する意見表出（見解）を発出予定。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2024 年に開催予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月～2023 年 3 月の間に 2 回、分科会を開催したいと考えている。

④ その他、報告事項

特になし。

(4) 人文学の国際化と日本語分科会（委員長：竹本幹夫）

① 意思の表出の状況

見解「日本の人文知の更なる共有のために」

※言語・文学委員会の査読中

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月～2023 年 3 月に 2 回、分科会を開催したいと考えている。

④ その他、報告事項

本分科会では主に提出した見解「日本の人文知の更なる共有のために」について、親委員会から受けた序言に従い、再検討を行い、審議を重ねたうえで修正案を提出した。

2. 哲学委員会（委員長：吉岡洋）

哲学委員会では5つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・2022年度第1回の委員会を4月20日にオンラインで開催した。その後はオンラインで連絡を取りつつ、公開シンポジウムの準備を進めてきた。次回の委員会は2022年12月10日に予定している。
- ・哲学委員会主催公開シンポジウム「今、なぜ国家が問われるのか？」を12月10日午後、オンラインで開催する予定である。

(1) 芸術と文化環境分科会（委員長：佐野みどり）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023年7月頃に公開シンポジウム開催を予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・12月10日（土） 第9回合同分科会開催予定
- ・12月21日（水） 第10回分科会開催予定

④ その他、報告事項

文化の多様性と持続可能な文化資源の保存・活用を共通認識として、3回の分科会を開き、〈風土〉、〈視覚と聴覚〉をテーマとするシンポジウム開催に向けて意見を集約し、2022年度は、1) 芸術の枠組み、2) 環境、3) 越境を柱としたプログラム構成で、11月26日、27日の2日間にわたって公開シンポジウム「芸術としての風土」を開催した。

(2) 古典精神と未来社会分科会（委員長：中島隆博）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・12月10日（土） 第6回合同分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では昨年度から引き続き、人類にとって共通の遺産と言える古典を、現代

的な観点から読解し直すことで、新たな社会的構想力に資する審議を行なっている。古典の範囲は、狭い意味での哲学だけでなく人文学全般に及ぶ分野横断的なもので、近現代のテキストも古典に含まれている。それぞれのメンバーが学協会に関与しており、そちらでの議論との連携も念頭に置いているが、より分野横断的な活動を考えている。アウトプットとして岩波ジュニア新書での出版が承認され、執筆に入ったところである。出版後に、社会に開かれたシンポジウム等を予定している。

(3) いのちと心を考える分科会（委員長：土井健司）

① 意思の表出の状況

報告「安楽死・尊厳死の倫理的是非について」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・12月10日（土） 第12回合同分科会開催予定
- ・12月16日（金） 第13回分科会開催予定

④ その他、報告事項

第25期はコロナ禍にあってトリアージの問題から審議をはじめ、2021年8月29日にシンポジウムを実施したが、その後このトリアージのシンポジウムならびにこれまでの分科会での審議を中心に書籍化を検討し、『コロナ禍とトリアージを問う』（青弓社）を2022年5月26日に公刊している。トリアージは災害時におけるいのちの選択を迫るものであるが、さらに発展して次に「安楽死・尊厳死」の問題について協議を進めてきている。参考人として第9回分科会では松田純（静岡大学特任教授）、第10回分科会では本田まり（芝浦工業大学教授）、さらに第11回分科会では小松美彦（東京大学特任教授）を招き、ドイツ、イタリア、ベルギー、また日本の福生病院事件などについて意見を聴取し、この問題について協議を行ってきている。

(4) 哲学・倫理・宗教教育分科会（委員長：中村征樹）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・12月10日（土） 第9回合同分科会開催予定

④ その他、報告事項

哲学・倫理・宗教教育分科会では、第24期に公表した報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」が教育現場で有効に活用されることを目的に議論を行ってきた。そのためには教育現場等との連絡・連携・協力を進めることを念頭に、テクノロジー、ジェンダー、多文化共生、戦争等、現代的なテーマを切り口に、道徳教科書の内容を具体的に検討していくこととした。

(5) 世界哲学構築のための分科会（委員長：納富信留）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・12月10日（土） 第4回合同分科会開催予定

④ その他、報告事項

世界哲学学会大会 WCP を将来、日本・東京に招致することを目指して、日本から発信する「世界哲学 World Philosophy」について、国内外の状況の情報や意見交換を行っている。哲学系諸学会で今後シンポジウムや研究会の企画を進めるため、本分科会はその実質的な支援を行なっていく。CIPSH、FISP の日本での運営委員会開催（2023年度予定）に協力する準備を始めた。

3. 心理学・教育学委員会（委員長：西田真也）

心理学・教育学委員会では13の分科会を設置して、以下の活動を行ってきた。

- ・各分科会個別のテーマに沿った議論。
- ・分科会の垣根を越えたテーマ（公認心理師制度問題など）に関する議論。

(1) 法と心理学分科会（委員長：松宮孝明）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

日本心理学会との共催で、公開シンポジウムを 2023 年 6 月及び 11 月頃に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 2 月頃 第 7 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

法と心理学分科会では主に法学と心理学とでの人間観の異同を明らかにするための研究活動を行ってきた。

(2) 社会のための心理学分科会（世話人：遠藤利彦）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催実績および予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

準備中

(3) 実験社会科学分科会（委員長：亀田達也）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催実績および予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・無し（10 月 23 日に第 3 回分科会開催済（於：信州大学））

④ その他、報告事項

実験社会科学科会では主に、広義の実験手法を通じた社会科学間の連携活動を行っ

てきた。この目的に向けて実験社会科学カンファレンスを企画している。

(4) 排除・包摂と教育分科会（委員長：岡部美香）

① 意思の表出の予定

無し。ただし、②の成果を各種機関誌及び著作として公表することを計画している。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

日本教育学会・教育関連学会連絡協議会と連携して、2023～24年にかけて、公開シンポジウム（2023年8月にも開催予定）、学術フォーラム、公開座談会を複数開催する予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月に④に関連して第7回分科会を開催予定

④ その他、報告事項

2023年3月18日と21日に、G-Science 学術会議のテーマに関連させて、U7及び日本 OECD 共同研究、大阪大学・社会ソリューションイニシアティブなどと共同で、高校生・大学生が参加するプレゼンテーション、ディスカッションを開催する予定である。

(5) 脳と意識分科会（委員長：苧阪直行）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月までに2回の分科会を開催予定

④ その他、報告事項

脳と意識分科会では主に委員の研究紹介発表と融合社会脳研究のための Social Brain Lab の創設と展開をテーマに委員間のネットワーク構築を進めるための活動を行ってきた。

(6) 健康・医療と心理学分科会（委員長：鈴木伸一）

① 意思の表出の予定

有（今期の最終年をめどに、いくつかの分科会と合同で提言を取りまとめる予定である）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを開催予定（時期未定）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月末までに1回開催予定

④ その他、報告事項

健康・医療と心理学分科会では主に健康・医療分野における心理学研究の発展と公認心理師活動の普及と発展に資する議論を行ってきた。

(7) 心理教育プログラム検討分科会（世話人：遠藤利彦）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

準備中

(8) 高大接続を考える分科会（委員長：吉田文）

① 意思の表出の予定

報告「日本における高大接続の課題—「セグメント化」している現状を踏まえて—」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

・公開シンポジウムを2022年12月12日（月）18：00～20：00にオンラインで開催予定

・公開シンポジウムを2023年3月11日（土）14：00～17：00にオンラインで開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2022年12月12日（月） 第6回分科会開催予定
- ・2023年3月頃 第7回分科会開催予定

④ その他、報告事項

高大接続を考える分科会では、主に高大接続を入学者選抜から教育接続に拡張し、その実態を明らかにする活動を行ってきた。「報告」の作成を行っており、途上で有識者のコメントをいただき内容の充実に努めている。

(9) 心の総合基礎分科会（委員長：坂田省吾）

① 意思の表出の予定

心理学の基礎教育の重要性について「見解」表出に向けて議論を進める予定であるが発出期は第26期の予定。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

第26期に公開シンポジウムを開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年3月末までに1回開催予定

④ その他、報告事項

心の総合基礎分科会では主に心理学の基礎教育のあり方、大学院の心理学教育や若手基礎心理研究者のキャリアパス等について公認心理師養成も含めて広い視野からの検討を行ってきた。

(10) 心の研究将来構想分科会（委員長：四本裕子）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

無し（Slack等を使ってオフラインで議論を進めている）

④ その他、報告事項

心の研究将来構想分科会では、人文・社会科学の知の蓄積と自然科学の知の融合による「総合知」の創出と活用に関して、心の研究分野からどのような貢献ができるかについて議論してきた。社会的養成、倫理の問題、オープンサイエンスへの貢献、社会への提案のあり方について意見を交わし、今後、分科会としてどのような具体的アクションが取れるかについて議論を進めている。

(11) 公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会（委員長：丹野義彦）

① 意思の表出の予定

無

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年度に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 3 月末までに 1 回開催予定

④ その他、報告事項

公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会では、国家資格である公認心理師の専門性や社会貢献をどのように充実化すべきかについて議論し、それをどのように提言としてまとめるかについて検討をおこなっており、今後も継続する予定である。

(12) 乳幼児発達・保育分科会（委員長：浅井幸子）

① 意思の表出の予定

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023 年 2 月 23 日（祝）に、排除・包摂と教育分科会と共催で、オンライン公開シンポジウムを実施予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 3 月末までに 1 回開催予定

④ その他、報告事項

乳幼児発達・保育分科会では、排除・包摂と教育分科会と連携し、主に子ども政策総合化に関する課題について検討してきている。

(13) デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会（委員長：永崎研宣）

① 意思の表出の予定

見解「デジタル時代に即した人間・文化・社会研究の包括的な基盤構築に向けて（仮）」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・ 022 年 12 月 27 日（火） 第 8 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

言語・文学委員会、哲学委員会、社会学委員会、史学委員会、地域研究委員会、情報学委員会と共同で設置したデジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会では主にデータ駆動型人文・社会科学の現状と今後の展望を分野横断的に話し合う活動を行ってきた。

4. 社会学委員会（委員長：佐藤嘉倫）

社会学委員会では 9 つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・それぞれの分科会において各テーマについて審議を深めてきた。
- ・審議の成果をシンポジウムで公開したか、今後シンポジウムや学術フォーラムを公開する予定である。
- ・審議の成果を見解や報告で公開する予定である。

(1) フューチャー・ソシオロジー分科会（委員長：佐藤嘉倫）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 6 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・ 2023 年 2 月頃 第 6 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、「フューチャー・ソシオロジー」と題して、社会学の新領域を創出す

るための活動を行ってきた。毎回の分科会で議論を重ね、2022 年第 5 回分科会にてその概要を確定した。

(2) 社会福祉学分科会（委員長：和氣純子）

① 意思の表出の状況

見解「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り取り残さない制度・支援への変革～」

※社会学委員会での査読終了、第一部にて査読中

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 3 月 26 日（日）13：00～16：00 にオンライン開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 3 月 26 日（日） 第 9 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会ではコロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉のあり方の検討を行ってきた。

(3) 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会（委員長：和氣純子）

① 意思の表出の状況

無し（第 25 期の成果を著作等にまとめて刊行する可能性について検討中）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023 年 4 月頃、公開シンポジウム開催を検討中

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 1 月末に第 8 回分科会を開催予定

④ その他、報告事項

2022 年 4 月 23 日（土）に、『孤独・孤立と「つながり」の再生』と題するシンポジウムを開催した。内閣官房孤独・孤立対策担当室にご登壇をいただき、取組の概要と、シンポジウム直前に公表された「人々のつながりに関する基礎調査」の結果について報告をいただいた。さらに、「つながり」の再構築に向けて NPO・ボランティアの視点から課題を提起し、格差・分断、ジェンダー、地域・社会福祉協議会との関わりで議論を深めた。当日の参加者は 392 名。後日の見逃し配信再生回数は 381 と、多くの関心を

得た。2022年6月には、第24期の成果として、『自助社会を終わらせる』（宮本太郎編、岩波書店）を刊行した。

(4) **社会統計調査アーカイヴ分科会**（委員長：玉野和志）

① 意思の表出の状況

見解「社会統計調査データの政策的な活用について」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

学術フォーラムを2023年6～9月頃開催予定（調整ができればWeb調査の課題に関する検討分科会と共同開催する予定）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022年12月11日（日） 第8回分科会開催予定

・2023年2～3月頃 第9回分科会開催予定（調整ができればWeb調査の課題に関する検討分科会と同日開催ないしは合同開催する予定）

④ その他、報告事項

本分科会では主にEBPM(証拠にもとづく政策形成)についての検討を行っていたが、政府統計不正や新型コロナウイルス感染状況に関するデータの活用などの問題が浮上してきたので、改めて社会調査ないし統計調査のデータの活用に関して、政府統計関係者、福井県の感染対策関係者、そして社会調査協会などのステイクホルダーへの意見聴取を行った。

(5) **災害・復興知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会**（委員長：吉原直樹）

① 意思の表出の状況

報告「東日本大震災の復興をめぐる社会的モニタリングの方法と課題」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

未定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月頃 第11回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に『学術の動向』2023年3月号特集への執筆及び上記報告に向けての論点整理のための活動を行ってきた。

(6) 社会理論分科会（委員長：遠藤薫）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年3月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月頃 第4回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にコロナ・パンデミックと社会課題の解決の活動を行ってきた。

(7) ジェンダー研究分科会（委員長：柘植あづみ）

① 意思の表出の状況

報告「ジェンダー化されたパラアカデミクス（学術支援職）の待遇改善の必要性について—持続的・安定的な「学術の再生産」のために—

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し（検討中だが、未決定のため3月までには間に合わないと思われる）。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年2月頃 第9回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、第一に、シンポジウムや勉強会の開催について検討した結果、第24期からの課題である報告「ジェンダー化されたパラアカデミクス（学術支援職）の待遇改善の必要性について—持続的・安定的な「学術の再生産」のために—」を優先することになり、その文書案について議論を行った。

(8) Web調査の課題に関する検討分科会（委員長：佐藤嘉倫）

① 意思の表出の状況

報告「社会的ビッグデータの公共的な利活用に向けて（仮）」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

学術フォーラムを 2023 年 6～9 月頃開催予定（調整ができれば社会統計調査アーカイヴ分科会と共同開催する予定）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 2～3 月頃 第 8 回分科会開催予定（調整ができれば社会統計調査アーカイヴ分科会と同日開催ないしは合同開催する予定）

④ その他、報告事項

本分科会では主にビッグデータの問題点に留意しつつ公共的に有意義な利活用をすすめる方策を審議してきた。その結果、報告「社会的ビッグデータの公共的な利活用に向けて（仮）」を表出する予定である。

(9) 新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会（委員長：佐藤嘉倫）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・無し（2023 年度初め頃に開催する予定）

④ その他、報告事項

本分科会では社会学委員会各分科会委員長を主な委員とする分科会であり、各分科会活動の情報を共有しつつ、コロナ禍に伴う社会の再編に関する審議をしてきた。

5. 史学委員会（委員長：若尾政希）

史学委員会では 10 の分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

・各分科会の活動について情報共有を行い、史学委員会主催のシンポジウムについて審議了承した。

・具体的に次の 3 つの公開シンポジウムを開催した。

公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流」（2022 年 6 月 25 日、日本歴史学協会と共催）

公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」（2022年10月2日）

公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム 「歴史総合」をめぐって（6）「歴史総合」の教科書と授業を検討する」（2022年10月29日、日本歴史学協会と共催）

・各分科会の活動について情報共有を行うために、史学委員会内に設置された分科会の正副委員長と緊密に連絡をとりあう体制（拡大史学委員会と仮称）を作り情報共有を図った。また、パンデミックと社会に関する連絡会議に史学委員会から4つの分科会が参加している。

・前の期から引き続き、日本学術会議資料の保全の在り方について協議している。

(1) 中高大歴史教育に関する分科会（委員長：若尾政希）

① 意思の表出の状況

無し（本分科会では、中学校・高校・大学等の歴史教育をめぐる諸問題とその学術的背景について検討している。とりわけ第26期では、高等学校の新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の意義と課題について検討し、意思の表出を行っていきたいと考えている。）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年10月頃開催予定（日本歴史学協会と共催）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年2月頃 第7回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に中学校・高校・大学等の歴史教育の接続と新科目による大学入試の円滑な実施を促す活動を行ってきた。2022年10月29日に、公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム 「歴史総合」をめぐって（6）「歴史総合」の教科書と授業を検討する」（史学委員会・日本歴史学協会と共催）を開催した。

(2) IUHPST 分科会（委員長：木本忠昭）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022年12月26日（月） 第9回分科会開催予定

・2023年3月頃 第9回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に国際会議関係の対応として、科学史技術史関係では2021年の第26回 ICHST に対応し、科学・技術の論理学/方法論/哲学関係では2023年開催の第17回 CLMPST の準備活動、そして国際哲学人文科学会議 CIPSH 関係では2023年に日本開催予定の総会・国際会議の準備活動を行ってきた。

(3) 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会 (委員長：芳賀満)

① 意思の表出の状況

見解「2022年改正博物館法を受けて今後の博物館制度のあり方について (仮題)」

※科学的助言等対応委員会で対応中

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年3月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月頃 第7回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に今後の博物館のあり方をめぐって審議を行ってきた。

(4) 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 (委員長：佐野正博)

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022年3月頃 第6回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にイノベーション、および、学術と政治の関係に関して科学史・技術史・科学論・技術論・科学技術社会論・科学技術社会学の視点から審議するなどの活動を行ってきた。

(5) アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (委員長：川島真)

① 意思の表出の状況

無し（第 25 期中に意思表出のための準備、議論を進めてきたが現段階で意見表出は難しい状況にある。第 26 期に意思表出することを期したい）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し。

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2022 年 12 月頃 第 5 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にコロナ禍、またウクライナ戦争によるアジア研究の環境変容の実態に即した具体的発信の必要性を確認し、審議を進めてきた。2022 年 9 月 18 日に、公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争」を開催した。

(6) 文化財の保護と活用に関する分科会（委員長：福永伸哉）

① 意思の表出の状況

見解「地域社会の継承・発展を支える文化財保護のあり方について(仮題)」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2022 年 12 月 11 日に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2022 年 12 月 23 日 第 7 回分科会開催予定
- ・ 2023 年 3 月頃 第 8 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に 2019 年 4 月施行の改正文化財保護法が文化財保護行政の体制や実務に及ぼす正負の影響、さまざまな災害が頻発する中で文化財防災・減災を図るための効果的な方策、文化財保護の次世代を担う人材育成等を検討課題とし、分科会審議を中心に活動を行ってきた。

(7) 歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会（委員長：若尾政希）

① 意思の表出の状況

見解「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料・記録、記憶の保全と継承に向けて」（仮題）

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

- ・公開シンポジウムを 2023 年 1～3 月頃開催予定
- ・公開シンポジウムを 2023 年 6 月頃開催予定（日本歴史学協会と共催）

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023 年 12 月頃 第 7 回分科会開催予定
- ・2023 年 1～3 月頃 第 8 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に①アーカイブズ制度の改善に向けて、②私文書の保存・管理をめぐって、③被災資料の救済・保全をめぐって、について審議してきたが、とりわけ、近々に廃棄される可能性が高い、新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料の保全について集中的に議論を重ねている。

(8) 国際歴史学会議等分科会（委員長：吉澤誠一郎）

① 意思の表出の状況

無し（ただし、第 26 期に向けて論点の絞り込みを進めている）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 7 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2022 年 12 月 4 日（日） 第 3 回分科会開催

④ その他、報告事項

本分科会では、主に国際歴史学会議第 23 回大会(2022 年 8 月 21 日～27 日)の開催、第 22 回日韓歴史家会議(2022 年 11 月 19～20 日)の開催にむけた活動を行ってきて、いずれも無事に終了した。

(9) 歴史認識・歴史教育に関する分科会（委員長：栗田禎子）

① 意思の表出の状況

見解「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題——対話に基づく複眼的把握と開かれた歴史教育をめざして」（仮題）」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年8月頃開催予定（「見解」表出後の社会発信のため）

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1月頃 第8回分科会開催予定
- ・2023年3月頃 第9回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に急激に変化する現代の世界・社会において歴史認識・歴史教育が抱える課題を検討し、将来の展望を示すための審議を行ってきた。グローバル化と分断・格差の深化、AI化が知のあり方にもたらす変容、教育現場が抱える課題、教科書をめぐる制度の実態と課題、歴史教育や歴史実践に市民社会が果たす役割等について外部の参考人も招聘しつつ分科会を開催して検討を重ね、2022年10月2日には公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」（史学委員会と共催）を開催した。

(10) 歴史学とジェンダーに関する分科会（委員長：長志珠絵）

① 意思の表出の状況

無し（第26期に向けての意思表示の準備を進めている）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開及び国際シンポジウムを2023年7月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年3月頃 第4回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にジェンダー史・女性史の蓄積と社会との関係として、展示のあり方やアーカイブのあり方をめぐる現状についてのヒアリング等についての活動を行ってきた。女性史関係の資史料は所蔵機関も資史料の形態も多様である一方、国際的な展開可能な論点も多く、今後も適切なヒアリングや議論を続けていく必要がある。

6. 地域研究委員会（委員長：小長谷有紀）

地域研究委員会では9つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・ 3つの分科会（地理教育分科会、地域情報分科会、人文・経済地理分科会）で、意見表出の準備を行った。
- ・ 5つの分科会（地理教育分科会、地域情報分科会、地域研究基盤強化分科会、地域学分科会、多文化共生分科会）で連携しながら、シンポジウム等を行い、研究成果の社会還元に努めた。また、アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会では、昨年度に実施したシンポジウムの内容を『学術の動向』に特集として発表した。
- ・ 3つの分科会（文化人類学分科会、地理教育分科会、地域学分科会）で連携しながら、関連出版物について準備を行ってきた。

(1) 地理教育分科会（委員長：井田仁康）

① 意思の表出の状況

見解「「地理総合」の充実と小学校から大学までの地理教育の一貫性の実現に向けて——生涯教育に向けた学校教育の在り方を問う」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2022年9月24日に公開シンポジウムを実施したので、今後の開催予定はない。

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2023年1月、又は2月頃 第6回分科会開催予定

④ その他、報告事項

高等学校での必履修科目「地理総合」が今年度から始まった後の段階で、2020年8月に日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会が発出した提言「「地理総合」で変わる新しい地理教育の充実に向けて——持続可能な社会づくりに貢献する地理的資質能力の育成」の検証をするとともに、「地理総合」の実施でどのように地理教育が充実したのかの検証及び更なる地理教育の課題を整理し、高等学校だけでなく、小学校から大学までの一貫した継続的な地理教育の充実のために、どのような改善をしていくべきかの議論を重ねてきた。

(2) 地球環境変化の人的側面（HD）分科会（委員長：近藤昭彦）

① 意思の表出の状況

無し。現在の世界における様々な問題の本質理解のためには、その“人的側面”の理解が不可欠であるという考え方は堅持しているが、普遍的な考え方の形成

は困難であった。顔が見え、名前があり、暮らしがある人間をどのように尊重し、多様な世界をどのように理解したらよいか、引き続き検討中である。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

現在の開催予定はないが、第 25 期の期間中には企画したい。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 3 月頃 第 5 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では環境（人、自然、社会の関係性）に関わる様々な問題に対する勉強会と議論を行ってきたが、人間的側面の理解に向けて更に検討を続ける予定である。

(3) 地域研究基盤強化分科会（委員長：小長谷有紀）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

学術フォーラム「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究：ウクライナ危機に多角的に迫る」を 2022 年 12 月 10 日に開催予定（オンライン併用）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月 10 日（土） 第 5 回分科会開催予定

・2023 年 3 月頃 第 6 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にウクライナ危機に対応して研究成果の社会還元に関する活動を行ってきた。

(4) 地域情報分科会（委員長：矢野桂司）

① 意思の表出の状況

提言「地名データベースの構築と地名標準化機関（あるいは地名専門機関）の設置に向けて」

※第一部に申出書を提出済

※地域研究委員会地域情報分科会・地球惑星科学委員会 IGU 分科会・地球惑星科学委員会 IGU 分科会地名小委員会の連名

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

地域研究委員会地域情報分科会・地球惑星科学委員会 I G U 分科会合同

公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題：地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」2022年12月18日（日）（オンライン開催）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月頃 第7回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に地名の標準化に関する提言の表出と、地域情報に関する未来の学術振興構想への申請に関する活動を行っている。

(5) 人文・経済地理学分科会（委員長：松原宏）

① 意思の表出の状況

見解「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の実施に向けて（仮題）」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウム「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」を2022年12月23日に開催予定（オンライン開催）

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022年12月23日 第3回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主にコロナ禍を踏まえた地域政策のあり方に関する資料収集と討論を進めてきた。今後、公開シンポジウムを開催し、見解として意思の表出を行っていく。

(6) 文化人類学分科会（委員長：高倉浩樹）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月頃 第6回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に地理教育および文化遺産政策への文化人類学の貢献を検討する活動を行ってきた。前者については、地誌・国際理解教育小委員会との合同会議を行い、高校地理の副読本相当の書籍を現在印刷中である。後者については、地誌・国際理解教育小委員会との合同会議を行い、高校地理の副読本相当の書籍を出版することで合意した。また、文化庁・国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター・国立民族学博物館の専門家を招聘し、文化人類学からの協力について検討した。

(7) 多文化共生分科会（委員長：竹沢泰子）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

オンライン公開シンポジウム「人間の「ちがい」と差別」を 2022 年 11 月 19 日開催

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 2 月頃 第 9 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に国内の外国ルーツをもつ人びとの人権や子どもたちの教育をめぐる諸問題について検証する活動を行ってきた。

(8) 地域学分科会（委員長：宮町良広）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2022 年 12 月 4 日「人口減少時代の地域のかたち」に開催（オンライン併用）

③ 今年度内の分科会開催計画

・12 月 4 日（日） 第 8 回分科会開催

④ その他、報告事項

地域創生に関して、イノベーションと地域経済、沖縄市コザ地区の街の記憶と魅力、地域学とトランスディシプリナリティ、多文化教育と地域学、「地理総合」の地域学、食

と農と地域の連携、国家と地域の関係、企業による地域づくりなど幅広く審議し、その成果をシンポジウムで公開する。また、広義の地域学を想定した Good Practice を幅広く収集し、2023 年秋の刊行に向けて出版の準備を進めている。

(9) アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会（委員長：羽場久美子）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

毎年シンポジウムを開催してきたので、アジアと世界の紛争及び紛争解決について、外部研究者も交えながら、学術フォーラムあるいは国際シンポジウムを開催予定。

シンポであれば 2023 年 2 月末、学術フォーラムの場合 5～6 月を考えている。

③ 今年度内の分科会開催計画。

- ・ 2022 年 12 月に第 6 回分科会
- ・ 2023 年 3 月に第 7 回分科会（国際発信の準備）

④ その他、報告事項

2021 年 12 月に実施したシンポジウムの成果を『学術の動向』にまとめて刊行し、さらに一般書の刊行を予定している。

2023 年 8 月に早稲田大学で実施される世界国際関係学会（ISA）に参加し、英文出版を計画している。

7. 法学委員会（委員長：和田肇）

法学委員会では 9 つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・ 2 分科会で意見表目の手続きが進行している。
- ・ 査読委員会を設置した。
- ・ 予算執行等について情報共有を行ってきた。

(1) 「グローバル化と法」分科会（委員長：高山佳奈子）

① 意思の表出の状況

見解「グローバル化をめぐる法的諸課題に対応できる法務人材の養成——ソフトとハードの両面から——（仮）」

※第一部に申出書を提出済

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1月頃 第6回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、第20期から活動を継続し、「国際的な課題への日本（法）の対応」とこれを支える「国際化に対応する教育」を柱として検討してきたので、今期は主に人材養成を対象とする「見解」発出に向けた活動を行ってきた。すなわち、過去に出された論点を網羅的に洗い出し、その後の法曹養成制度と社会情勢の変遷をふまえて改めて確認・検討した。

(2) 生殖補助医療と法分科会（委員長：水野紀子）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年度後半に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年2月頃 第8回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会は、法務大臣・厚生労働大臣による審議依頼を受けて設置された課題別委員会「生殖補助医療の在り方検討委員会」の後掲組織として、2020年に制定された「生殖補助医療法の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法」を分析するとともに、歴史的・比較法的考察、世論の動向等もふまえ、今後の立法について多様な観点から検討している。前述の特例法及びさらなる立法を検討している自民党プロジェクトチームの代表を務める国会議員をはじめ、外国法の専門家等を外部講師として招聘し、議論を重ねている。

(3) ジェンダー法分科会（委員長：南野佳代）

① 意思の表出の状況

無し。ただし、第26期に見解、又は報告を取りまとめる方向で調整中

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 2～5 月頃、2 回開催予定

- ・刑法性犯罪規定改正にかかる公開シンポジウム
- ・ハラスメントへの対応に関する公開シンポジウム

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023 年 2～3 月頃 第 8 回分科会開催予定（今年度 4 回目）

④ その他、報告事項

本分科会では主にハラスメントに関する法制と各分野での具体的な対応について、手続のあり方の一定の目安を立てることを目標として調査研究活動を行ってきた。成果の一部として公開シンポジウムを行い、広く社会に知見を発信するとともに、市民との意見交換の場とする予定である。

(4) IT 社会と法分科会（委員長：川嶋四郎）

① 意思の表出の状況

無し（ただし、これまで議論を重ねていることから、第 26 期に向けたまとめと申し送りも行いたい。）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 3 月頃開催予定。学術雑誌等への論攷の寄稿も予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2022 年 12 月頃 第 6 回分科会開催予定
- ・2023 年 3 月頃 第 7 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

この分科会では、IT 利用者の安全なアクセス、利用の保護とプラットフォーム事業者の責任等について、経済産業省の報告書等の検討をも踏まえつつ、「IT 社会における利用者とアクセス」を基軸にして考察を重ねてきた。

(5) 法曹養成と学術法制分科会（委員長：山田八千子）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 7 月頃開催予定（ただし次回の委員会にて最終決定をする）

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2022 年 12 月 15 日（木） 第 5 回分科会開催予定
- ・ 2023 年 3 月頃 第 6 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、いわゆる 3 + 2 制度、在学受験を可能とする法曹養成制度の改革を受け、資格試験の位置づけと大学における学位制度との関連を検討し、法学部教育、法曹養成、法学研究者育成におけるあり方を提示しこれに関わる多様な見方を示すための活動を行ってきた。

(6) 社会と教育における LGBTI の権利保障分科会（委員長：南野佳代）

① 意思の表出の状況

無し。ただし、第 26 期において見解、又は報告を取りまとめる方向で調整中である。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 1 ~ 5 月頃開催予定

- ・ 公開シンポジウム「婚姻平等の射程」2023 年 1 月 7 日（土）13 : 30 - 17 : 30

オンライン開催（11 月幹事会承認見込み）

- ・ 「統計における性別表記とジェンダー」（仮）公開シンポジウム オンライン開催
2023 年 2 月下旬 ~ 3 月に開催予定

- ・ 「私的領域」における平等と法的規制に関する公開シンポジウム オンライン開催、
2023 年 4 月頃予定

③ 今年度内の分科会開催計画

2023 年 2 ~ 3 月頃 第 8 回分科会開催予定（今年度 4 回目）

④ その他、報告事項

本分科会では主に 1 親密な関係性のあり方、2 ジェンダーと統計、3 性の多様性と人権、4 包括的差別禁止法の可能性、の 4 点について、調査研究活動を行ってきた。成果の一部として公開シンポジウムを行い、広く社会に知見を発信するとともに、市民との意見交換の場とする予定である。

(7) セーフティネットと法分科会（委員長：和田肇）

① 意思の表出の状況

見解「雇用・就業と生活保障のセーフティネットの再構築に向けた見解」

※科学的助言等対応委員会からの意見を元に見解案を作成中

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 5 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 1 月 第 9 回分科会開催予定

・2023 年 3 月 第 10 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に意見表出に向けて分科会の活動を行ってきた。構成メンバーが多く、扱っているテーマが、「コロナ禍とセーフティネット」であり、テーマが非常に広く、多くのメンバーに報告を行ってもらった関係から、開催回数が多くなっている。

(8) リスク社会と法分科会（委員長：大塚直）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

当面予定なし

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月 27 日 第 9 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では様々なリスクに対する法的な対応について研究を行ってきた。何らかの形で社会に還元したいと考えている。

(9) 「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会（委員長：三成賢次）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 3 月半ば頃に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2022 年 12 月 26 日（月）第 7 回分科会開催予定
- ・ 2023 年 3 月半ば頃 第 8 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では、主に本分科会の課題の検討を着実に進め、今年度におけるシンポジウムの開催に向けた活動を行ってきた。

8. 政治学委員会（委員長：荻部直）

政治学委員会では 5 つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・ 高校科目「公共」のためのアクティブ・ラーニング案の検討。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策の政策形成過程における政治家と専門家との関係をめぐる検討。

(1) 政治思想・政治史分科会（委員長：早川誠）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムないし研究会を 2023 年 9 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・ 2022 年 12 月 6 日（火）第 4 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

分科会を 2 回開催し、公開シンポジウムないし研究会の開催に向けて議論するとともに、政治学系学会との連携を含めて、今後の活動方針を検討した。

(2) 比較政治分科会（委員長：大串和雄）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開講演会を 2023 年 1 月 19 日に開催予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

開催予定なし。

④ その他、報告事項

2022年3月13日に、法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、第一部総合ジェンダー分科会と共同で、公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」を主催した（オンライン開催）。また、このシンポジウムの内容を『学術の動向』に掲載すべく準備を進めた。

(3) 行政学・地方自治分科会（委員長：北山俊哉）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年8月の自治体学会に合わせて開催する予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022年12月～2023年1月に第6回分科会を開催予定。

④ その他、報告事項

2021年11月に分科会を開催し、以降の公開シンポジウムについて議論し、2022年11月に公開シンポジウムを開催することを承認した。また、政治学委員会における動向について意見交換すると同時に、今後の活動方針について検討した。2022年5月の分科会での審議の結果、2022年11月の公開シンポジウムは日本地方自治学会と共催で、「自治体とエネルギー政策」というタイトルで実施した。

(4) 国際政治分科会（委員長：山田高敬）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

検討中

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年3月頃 第3回分科会開催予定

④ その他、報告事項

・学術フォーラム「感染症をめぐる国際政治のジレンマ——科学的なアジェンダと

政治的なアジェンダの交錯」の成果発表方法について審議した。

- ・2022年7月29日にオンラインで公開シンポジウム「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」を開催した。
- ・日本学術会議「未来の学術振興構想」に関して、日本国際政治学会と協議した結果、共同して意向表明を提出することを決定した。

(5) 政治過程分科会（委員長：谷口尚子）

① 意思の表出の状況

無し（今期の活動テーマ・活動を踏まえて、分科会構成員・関係者で協力して報告書を作成する予定）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023年3月、オンラインでの公開シンポジウム「地方におけるデジタル・ガバナンス」を開催予定。

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年3月、第2回分科会（オンライン）開催予定

④ その他、報告事項

2022年9月に、東京都選挙管理委員会事務局の協力のもと、明治大学付属明治高等学校において主権者教育を行った。

https://www.meiji.ac.jp/ko_chu/topics/detail/2022/20220912kctop.html

9. 経済学委員会（委員長：岡崎哲二）

経済学委員会には、IEA分科会、IEHA分科会、持続的発展のための制度設計分科会、数量的経済・政策分析分科会、フューチャー・デザイン分科会、ワークライフ・バランス分科会の6つの分科会が置かれており、それぞれのテーマに関する審議、公開シンポジウムの開催等の活動を行っている。

経済学委員会は2021年12月3日、2022年2月21日、同4月18日の3回開催され、経済学委員会と日本経済学会との連繋の仕方について、公募される「未来の学術構想」への対応等を審議した。

(1) IEA分科会（委員長：大塚啓二郎）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1月に第2回開催予定

④ その他、報告事項

2022年6月10日の IEA-METI Workshop に協力した。

(2) IEHA分科会（委員長：岡崎哲二）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

2022年7月に IEHA が主催する世界経済史会議、及び IEHA の総会と理事会がパリで開催された（ハイブリッド開催）。本分科会から複数の委員がこれら会議に出席して IEHA の運営に参加するとともに、その結果を 2022 年9月に開催した分科会で共有し、議論した。

(3) ワークライフバランス研究分科会（委員長：大石亜希子）

① 意思の表出の状況

見解「新たなワークライフバランス研究推進に資する統計基盤整備について」

※第一部に申出書を提出予定

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1月に第2回分科会を開催予定。

④ その他、報告事項

特に無し

(4) 数量的経済・政策分析分科会（委員長：福重元嗣）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023年5月27日及び28日のいずれかの日時において日本経済学会春季大会内で、研究者向けのチュートリアル・セッションを開催予定である。

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

2022年5月、日本経済学会の年次大会でチュートリアルセッションを開催した。

(5) フューチャー・デザイン分科会（委員長：西條辰義）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

2023年9月開催の「フューチャー・デザイン」にむけて準備中。

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月に開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では2023年に広島で開催されるG7においてフューチャー・デザインの使用を提案することを検討中。

(6) 持続的発展のための制度設計分科会（委員長：松島齊）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月に開催予定

④ その他、報告事項

2022 年 10 月に東京大学大学院経済学研究科の社会的共通資本寄附講座（良品計画）によるシンポジウムを後援した。

10. 経営学委員会（委員長：西尾チヅル）

経営学委員会では5つの分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。

- ・ 1つの分科会はすでに成果を「報告」として公表し、公開シンポジウムも開催した。
- ・ その他、今期中に「報告」1、「記録」1が取りまとめられる予定である。
- ・ いずれの分科会もオンラインによるワーキングも含めて活発な審議を進めている。

(1) 経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会（委員長：野口晃弘）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2022年11月27日に開催した。

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

本分科会では、2022年3月に公表した報告と、前期に合流した旧経営学における若手研究者の育成に関する分科会における議論の成果を社会に還元するため、公開シンポジウムの開催準備に取り組んだ。

(2) サービス学分科会（※総合工学委員会との合同分科会）（委員長：山本昭二）

① 意思の表出の状況

無し（第26期には第25期の成果を踏まえて報告等の意思の表出を検討）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

無し

④ その他、報告事項

本分科会では主に二つのワーキンググループに分かれて活動を行ってきた。これまでの活動をまとめた書籍を出版する予定である。もう一つのワーキンググループでは、

サービス学の教育課程の充実のために教材を作成する活動を行ってきた。

(3) SDGs と経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会（委員長：西尾チヅル）

① 意思の表出の状況

報告「サステナブル経営の実現をめざして：経済的価値と社会的価値の統合」

※第一部からの意見を元に申出書を修正し、11月23日に提出済み

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年8月に開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023年1月頃 第5回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会ではSDGsの理念に基づいて、社会性と経済性を両輪とするサステナブル経営を実行する上での問題点と必要な体制・対応策について審議を行ってきた。その成果を報告にまとめている。

(4) AI・IT等の普及による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会（委員長：原良憲）

① 意思の表出の状況

無し（但し、関係者との対話の機会を設けた上で、第26期に意思の表出を目指す）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを2023年6月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

無し（分科会は開催せず、オンラインで勉強会を開催予定）

④ その他、報告事項

本分科会では主にAIによる経営領域への変革に関する報告をまとめるため、①AIと人間、ビジネスでの変革、②AIと経営のフレームワーク、③会計監査等個別領域への適用、④教育カリキュラムなどについての活動を行ってきた。

(5) 新型コロナウイルス感染症による経営実践・経営学・経営学教育への影響を検討する分科会（委員長：原拓志）

① 意思の表出の状況

無し

※第 25 期の意思の表出を検討したが、記録とすることとなった

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウムを 2023 年 9 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月 23 日（金） 第 4 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では COVID-19 パンデミックの経営実践・経営学・経営学教育への影響について検討してきた結果を記録にまとめている（2022 年 8 月 8 日に第 3 回分科会を実施（オンライン））。

以 上

第一部附置分科会 活動報告

1. 第一部国際協力分科会 (委員長：日比谷潤子)

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1～3月頃、第3回分科会開催予定（2月頃を予定）

④ その他、報告事項

加入している国際学術団体（AASREC、IFSSO）について、現在の状況を共有し、事務局の体制に諸般の問題がある IFSSO に対して、引き続きアプローチしていくことを決定した。IFSSO に代わって加入する国際学術団体についても検討していく。

2. 第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会 (委員長：溝端佐登史)

① 意思の表出の状況

有（報告、または記録を2023年6～9月頃に発出を予定）。

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

- ・2023年1～2月頃 第6回分科会開催予定

④ その他、報告事項

科学技術・イノベーション基本法及び第6期科学技術・イノベーション基本計画以降における人文・社会科学の役割、振興を検討してきたが、特に総合知、研究評価と意識状況を踏まえて、論点を整理しておきたい。

3. 第一部人文・社会科学基礎データ分科会（委員長：佐藤嘉倫）

① 意思の表出の状況

有（報告、又は記録を 2023 年 6～9 月に発出する予定）

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

公開シンポジウム、又は学術フォーラムを 2023 年 6～9 月頃開催予定

③ 今年度内の分科会開催計画

・2023 年 3 月頃 第 8 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

本分科会では主に人文社会系の研究活動を適切に反映し、評価するためのデータを収集してきた。それらを整理して報告、又は記録として表出する予定である。

4. 第一部総合ジェンダー分科会（委員長：三尾裕子）

① 意思の表出の状況

無し

② 学術フォーラム、シンポジウムの開催予定

無し

③ 今年度内の分科会開催計画

・2022 年 12 月 28 日 第 9 回分科会開催予定

④ その他、報告事項

・今期の活動目標として、a)「中等教育におけるジェンダー平等教育」b)「タイトルナインと学校におけるジェンダー平等」の 2 つを策定した。

a)については、当事者を巻き込んだシンポジウムを 2022 年 5 月に開催した。これを踏まえ、男女共同参画分科会（科学者委員会所属）のもとに、ジェンダー教育の小委員会が設置されることとなった。b)については、実現のための環境整備に時間がかかると判断されたため、いったん中断している。また、c)ジェンダーにかかわる豊かな文化について、審議した。一般社会向けの啓蒙活動に向けて、準備を行っている。

・人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences - GEAHSS）と、必要に応じて連携して活動する。